

## 平野ロジスティクス

# コロナ後の将来を見据え事業基盤を強化

今春から羽田空港の国際線発着枠が拡大されたが、新型コロナウイルスの影響で航空各社は新規就航を相次ぎ延期した。空港間 OLT 輸送を主要事業とする平野ロジスティクスは、成田～羽田間の OLT 増加を見込んでいたが、出鼻をくじられる形となった。厳しい状況が続く中、同社は現状ある業務を効率良く回しながら、コロナからの回復期を見据え、事業基盤の強化に注力する方針だ。

### 成田～羽田間の OLT 輸送は95%減に

「成田～羽田間の OLT 輸送（保税輸送）は95%なくなりました」。こう話すのは益子研一取締役営業本部長。

周知のとおり、羽田空港では今春から国際線を増やすため、都心上空を通過する新しいルートの運用を始め、米国路線の大幅な増便や、ロシア/インド/フィンランドなど6つの国と地域を結ぶ新規路線の就航などにより、1日当たり50便増える計画だった。これに合わせて成田～羽田間の OLT 輸送量も大幅なアップが見込まれていたわけである。

平野ロジスティクスは、両空港間の輸送ニーズの高まりに対応すべく、同社の代名詞といえるオリジナルトレーラー“+シリーズ”のラインアップ強化や、トレーラーの運用効率アップのため、成田空港の貨物地区、羽田空港の国際貨物地区にそれぞれトレーラーの専用置場を確保するなど、積極的な投資を続け、着々と準備を進めてきた。

ところが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で状況は一変。各国が入国規制に踏み切るなどして旅客需要は激減し、航空各社は羽田への新規就航の延期や減便を余儀なくされた。

益子取締役は「成田～羽田間輸送が一気に増えるタイミングでしたが、増える分がゼロになっただけでなく、既存分の95%もなくなったことで、当社の航空貨物事業は売り上げペースで15%減りました」と説明する。

このコロナ禍によって同社の事業環境も様変わりした。成田～羽田間の OLT 輸送はほぼなくなった一方で、航空ネットワークが制限された中部/関西/福岡などの長距離の輸送需要が高まった。

OLT 案件が多い関西発着では、航空各社による関西就航路線が激減する中で、成田到着の輸入貨物の増加により、成田→関西の輸送量が150%アップした。その一方で関西→成田は5%減った。売り上げペースでは20%も減少しているというから、関西での航空貨物取扱量の減退が顕著に現れているといえよう。

中部もほとんどフライトがない状況にあるが、関西と同様に成田到着の輸入貨物が増えたことで、成田→中部が120%増と大幅に伸びた。

同じくコロナの影響で福岡発着便も急減したことで、福岡から関西への輸送が200%増えたという。福岡からの輸出貨物は、関西積みで対応しているため、輸送量が大きくアップしたというわけだ。

その結果、長距離輸送は200%アップしたという。これらの長距離輸送が増えたことで、成田～羽田間輸送が95%減った分を補う形になった。

「航空各社はコロナ禍により世界中のフライトを減便・運休して経営的に大打撃を受けている。それに比べれば、提供するサービスがあるだけまだまし。当社でもコロナの影

新型コロナの感染拡大の影響を受け、成田～羽田間の OLT サービスはほぼなくなったものの、長距離輸送の需要が高まっている。結果、長距離路線で200%増となり、主力の成田～羽田間輸送における95%マイナスを補った。



響を受けて低迷している事業もあるが、航空貨物輸送と並ぶもうひとつの柱であるメーカー系の製品輸送へは大きな影響がなかったことも幸いした」と実感している。

現状については、「ある仕事を社員で分け合いながらやっている。例えば、今まで成田～羽田間しか走ったことがないドライバーを初めて成田～関西間で走らせるなど、長距離が増えている分、ドライバーを効率良く配置するようにしている」と述べた。

### 主軸の“+1”と“+1α”を年内に増強へ

この難局をどう乗り越えるか。益子取締役は、「航空業界は必ずコロナ危機を脱して回復期を迎える。いまは我慢のとき。回復後に成長を取り戻すための体制を再構築する準備期間として、事業基盤の強化を図っていく」心構えだ。

まず、コロナの影響による旅客便の減少に伴い、空港間 OLT の長距離輸送が増えていく中で、主力であるオリジナル・トレーラーを含む車両増強を継続して進めていく。

平野ロジスティクスは、“+（プラス）シリーズ”として、大型トラックと比べて96インチULDを1台多く搭載できるセミトレーラー“+1”、同じく2台多く搭載できるフルトレーラー“+2”、+1と比べて積載量・容量を拡大した“+1α”、大型トラックよりLD3コンテナで7台多く積めるダブルデ

キ・セミトレーラー“+7”、+7に改良を加えて8台多く搭載できる“+8”と、計5種類のトレーラーを開発し、運行している（下記参照）。

そのうち、+1を年内に3台増強して計20台体制とするほか、ことし4月に20台体制としていた+1αを、5月に緊急で追加発注し、年内に5台追加して計25台に増強する。

成田～羽田間の OLT には主に+1を、東京/名古屋/大阪/神戸/福岡などの長距離路線には、背高貨物への対応にも強みを発揮する+1αを投入する計画としている。

また、トレーラーに加え、トラクターヘッドを年内に2台、来年の3月にさらに2台と、計4台を追加発注している。

これら車両強化とともに、優秀なドライバーの確保も進めている。「コロナ禍の厳しい状況だからこそ、良い人材が確保できるチャンス。仕事にも余裕があるので、その間に人材を育てていく」ことを目指す。

同社はこのほど、福岡営業所に+1αを初配備し、ドライバーを常勤させて、+1αによる福岡～成田間の長距離輸送サービスの提供を開始したが、この常勤ドライバーとして、ことし4月に新採用した若い人材を起用している。

全世界で新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しがなおみえない中、平野ロジスティクスは、将来を見据えた事業基盤の強化を行うことで、危機を脱した後の回復期に、しっかりと需要に応えられるような体制作りを進めていく。

### トレーラー・ラインアップ

同社の最新鋭オリジナル・トレーラーが“+シリーズ”だ。+シリーズは輸送コストの削減と燃料消費の抑制をベースに、荷物をより多く積みみたいという考えから開発をスタートした。パレットを1枚多く積めるのに経費は大型トラックと同じ、という+1を開発したあと、+1α、+7、+8など次々と新しい車両を生み出し、需要ニーズに柔軟に対応し、新しい輸送の形を提案し続けている。現在は5種類をラインアップする。



# 願い。

## 明日の空へ

新型コロナウイルス感染症の拡大により被害を受けられた皆様に心より  
お見舞い申し上げます。併せて、医療従事者等の皆様のご尽力に心よ  
り感謝申し上げます。

航空業界は未曾有の困難に直面いたしました。しかし、この先、必ずや  
明日の青い晴れ空が待っているはず。この危機に対し、一丸となって試  
練の時を乗り越えてまいりましょう。私達もこの困難な時代にこそ日本  
の航空業界の一助となれるよう、渾身の努力を続けてまいります。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、航空業界のさらなる  
繁栄、皆様のご健康、ご安全を心よりお祈り申し上げます。



株式会社 平野ロジスティクス  
Hirano Logistics Corporation



特定保険運送者